提案⑦
　福知山市の自然やコミュニティの中でしか体験できない思い出をたくさん作ることで「心の豊かさ」を育むとともに世界に向けて「発信したくなる気持ち」を育てよう

1班報告

グループワークから出てきた課題

- このテーマについての課題

・「心の豊かさ」を育むや「世界に向けて」「発信したくなる気持ち」を育てようというにテーマが広い。テーマを絞り込む必要がある。

・地域の人が地域の情報・文化を知る方法を考えていかなければならない。

・元伊勢等、観光地として非常に魅力的。その魅力が伝わっていない。

⇒「発信したくなる気持ちを育てよう」にフォーカスを当てPRの「方法」を検討する。

PRの「方法」についての課題

・ＰＲを誰に向けてやるのか。関係人口を増やしたいのか。それとも子どもの体験を増やしたいのか等、対象によって発信方法を考える必要がある。

⇒発信する対象者（ターゲット）を設定する必要がある。

・様々なSNSを活用に発信しているが、この情報が流れていく社会でどのように人の目に触れるか。また、ＳＮＳの種類が多いので今あるもので発信する仕組みがよいのではないか。

⇒多種多様にあるＳＮＳのどれを選択するか検討が必要。

それらを踏まえてターゲット像の設定、どのようなSNSがよいか検討が必要

ターゲット像の設定、どのようなSNSがよいか検討

【情報を発信するターゲット】

福知山に『帰ってくる』人をメインターゲットとしてみる。

『帰ってくる人』・・・・・・・Uターン、Ｉターン

・・・・・・・孫ターン、移住を希望する人

・・・・・・・里帰りや旅行など　　など

福知山に興味がある人を対象にしてみる。

【どのＳＮＳにするか】

Facebook、InstagramやX（旧Twitter）等であれば、情報が流れていき目にとどまらないことがある。また情報を発信するだけでなくその場でコミュニケーションが取れるSNSがよい。

参考事例：長野県佐久市
リモート市役所

みんなで佐久市を語る
リモート市役所

2021年1月より・・・・
ビジネスチャット「Slack」を使い、移住や暮らしの相談などに対応する「リモート市役所」を開設しています。

その中では・・・・・・
・佐久市の移住のリアルな情報を市民から発信（行政も発信している）
　市民同士、市民と市外在住の方との気軽な情報交換
・地方移住や仕事、子育てなどのオンラインオフラインでイベントを開催し、佐久市の現状や今後について、ディスカッションを行う。

⇒市民の方と市外の方同士でのコミュニケーションの場
**　市民の方からの積極的な発信**

取組の方向性（取組の内容）

▶ ①取組の概要

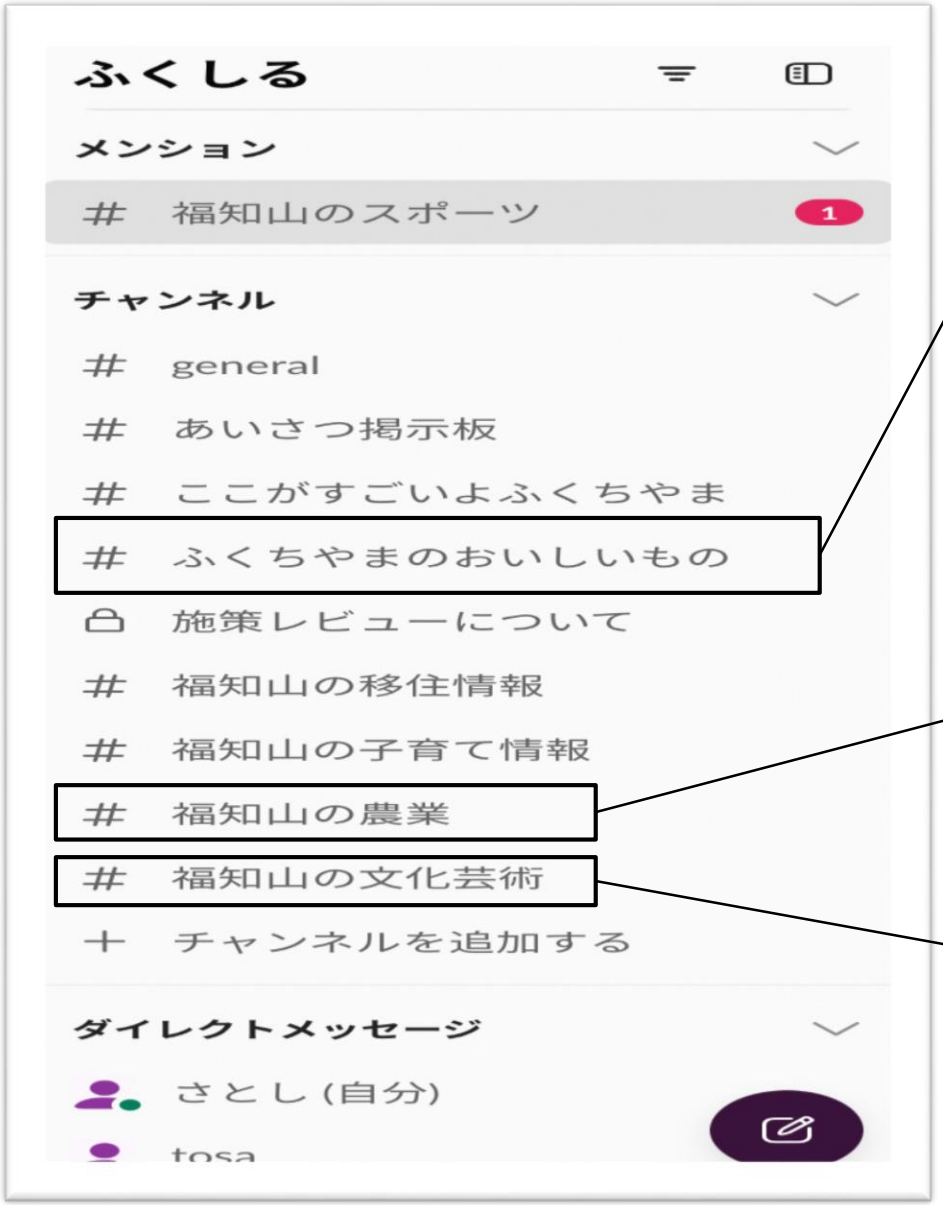
Slack（スラック）を活用して「地域の人が知らない情報を地域の人が知る、教える」をコンセプトとした仮称『ふくしる』を立ち上げ、福知山市民が発信、運営できるサイトを作る。

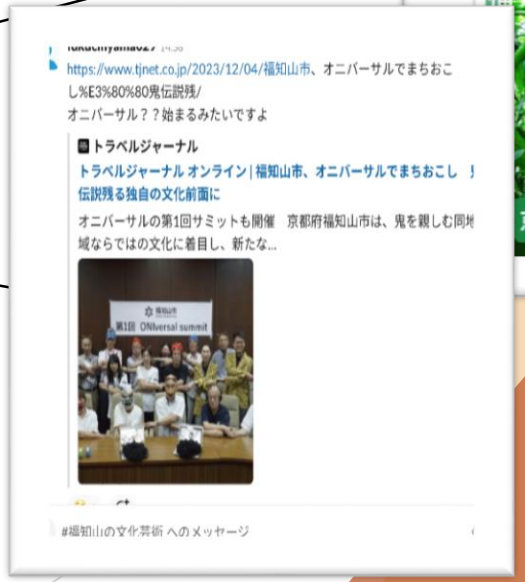
コアな情報や自身しか知らない体験、発見を掲載する

コアな情報をやり取りすることで新たな関係性を構築できる

⇒地域の情報を「発信したくなる気持ち」を育てる

Slackの特徴





こちらのQRコード
よりご参加ください。

取組の方向性（取組の内容）

Slack（仮称『ふくしる』）運用立ち上げる際の課題

・運営の基本方針を決める必要がある
　（不平不満を投稿する場にならないようにする等）
・発信の仕方は、大学生等の若い世代の感性を入れた方がよい。
　高校生や大学生と一緒に考える中で、運用、立ち上げを行った方がよい。
・ユーザー数が一定いないと、盛り上がらない。
・各自治会の協力が必要

取組の方向性（取組の内容）

- **「誰」が実践していくか**

　土台となるSlackの運用・立上げについては、福知山公立大学生や市民の公募にて運営側の人員を行政が募集する。公募した委員で運営を行う。

- **ユーザー募集**

　広報「ふくちやま」による募集や市ホームページ等を活用し、募集を行う。

ご清聴いただきありがとうございました。